

かゑらじと かねて思へハ 梓弓

なき數に入る 名をぞとどむる

四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第150号

令和4年8月9日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

## 公開講座「楠正行の生涯を学ぶ」感想文—その②

### 歴史を語る四條畷をジオラマにできないか

# 正行は、なぜ実直なまでに戦いに臨んだのか

## 正行の武士道の生きざまを伝える責務

### ● 感想文続報！ ●

以下、149号に続き、公開講座感想文の続報です。

### 四恩の教えを内包した身であるのに

喜寿を迎えるころは痴呆の症状も忍び寄ってくる。そんな風雪に負けじと「正行」の講義に参加させていただいた。講義の内容よりも先生の熱弁に毎回圧倒され、少々やきもちのような澱を持ち帰る自分がいた。そんな気持ちを引きづりながらの受講であった。

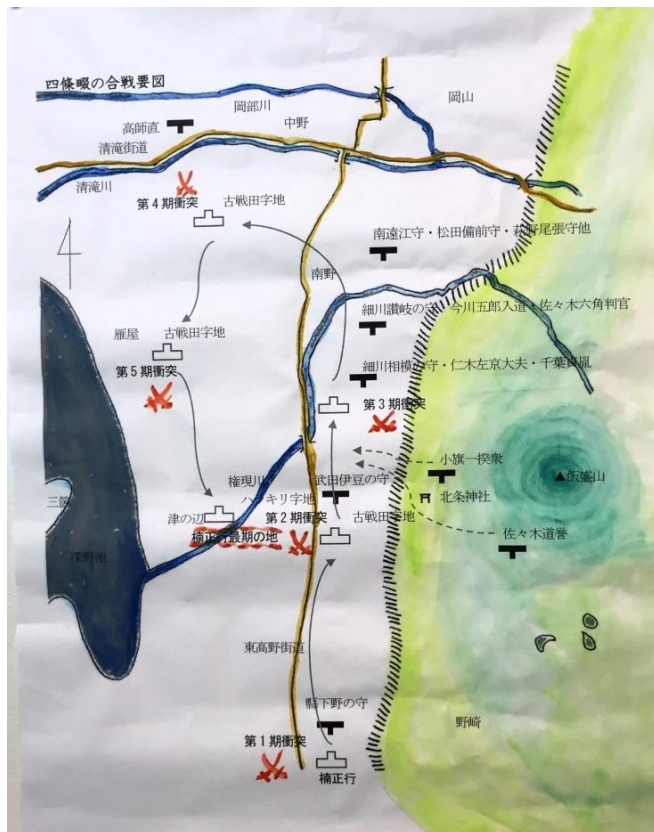
ところで、講義を受けている中で折々素朴な疑問が浮かんでいた。「正行はなぜ実直なまでに『戦い』に臨んだのか」という点であった。恩師龍覚坊に教わった「四恩の教え」を内包した身である

のになぜ戦いに赴くことを良しとできたのか。

あまりに初歩過ぎる疑問点ということで質問の気持ちはいつも後ずさりであった。今回の機会を大切に「まさつら」の周辺を更に学んでいきたいと思っている。

令和4年7月12日

上原 治



### 今も四條畷合戦の面影残る 四條畷の地

身分という越えられない壁に翻弄されながら、南朝復権という大義に一生をささげ、若くして四條畷で散った、正行という誇るべき武将が居たことを多くの人に知ってもらいたい、今回もその思いを新たにする講義でした。

この地には四條畷の戦いの証人となる古戦田、ハラキリという事跡や、正行も見えてであろう飯盛山、清滝川そして深野池の面影が今なお残っています。歴史を語るこの場所を生かしたい。

南北朝時代の一コマを、今に伝えるこれらの遺産を、一面ススキ野原の荒野で繰り広げられた戦いの様を、一枚の絵図に描き出すことができれば、正行終焉の地の歴史が、今、自分たちが住まいするこんな身近な場所での出来事だったのだと、実感してもらえるのではないのでしょうか。

願わくば、この絵図を大阪電気通信大学の皆さんで、「ジオラマ」にっしてもらえれば、正行を学ぶ子どもたちの楽しい教材になるのではと思います。

令和4年7月12日 四條畷楠正行の会 木村 素子

### 河鍋暁斎の父子別れ図、正成の眼差しは正行に

今回の「楠正行の生涯を学ぶ」10回シリーズを受講させていただきまして、いつも反省するのですが、この受講した内容を外部の方々に想いをもって話せるようになりたいな・・・いつも思っています。何とか自分のものにして郷土の誇る楠正行を発信してまいりたい。扇谷代表の熱く語られる講義に関心するだけでなく、楠正行の会の一助を、挑戦を試みたいと思います。

感想文ですが、武士の立願文や寄進文の全てが「家門」の「隆盛」や「武運の長久」を祈願することが一般であったのに対して、正成の願文は全く私利私欲な言葉はありません。恩義ある帝に忠勤であること。そして、国家の安泰を大前提に押し出して戦っています。よって正成のブレの気高さを伺い知れます。

自己一身の利害得失を捨て去っている人物は日本史上、最も潔い死は、楠正成であると思います。そして、気質のまっすぐな人、正行は、父の敵とただ憎むだけでなく国家安泰な持ち主であり、だからこそ、己を空しくして、義を貫き、散って逝った楠木正成・楠正行父子に感涙するのではないのでしょうか！

正平3年(1348)四條畷の戦い、南朝の全軍を指揮する総大将なりえなかった正行の戦いであつたが故に起こった悲劇である。4万大軍へ想像を絶する1千騎で戦い。正成・正行が信じた義は、正行の弟正儀に引き継がれ、その正儀は、父と兄と違い、北朝に降つてまで、生き続けることで正儀は南朝の復権を目指した。

正成、正行父子が貫こうとした義の精神は江戸時代の徳川光圀によって、その功績が見直され幕末の志士たちに引き継がれ、明治維新の原動力となる。

正成、正行二代にわたる、義を貫き通し戦い、潔い死によって、日本の近代が開かれたとの扇谷代表の講義に感銘を受けました。

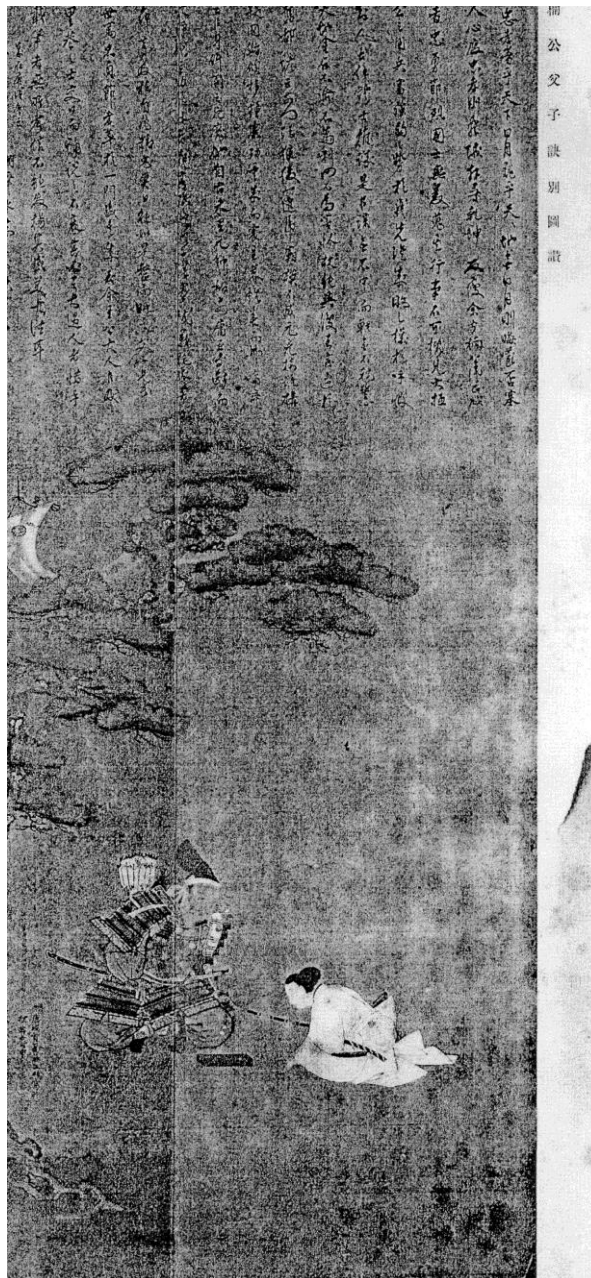
四條畷の誇る楠正行の武士道の生きざまを、甦らせ後

世に伝えることこそ、今、世界各地で戦争がおき混んとする国際社会の中で平和を求めて未来を切り開く原点になればと、念ずる思いです。

法華衆の芸術と題して、絵師や職人たちの足跡をたどる連載に「河鍋暁斎」の紹介がありました。そこには、志を託す歴史的な名場面”楠公父子桜井の別れ”の絵があり、思わず言葉が詰まる。暁斎の筆先がなぞる楠正成の口は固く閉ざされ、その眼差しは確かに息子に注がれています。「早く生い立て」と願うかのように見えました。

これからも楠正成・正行が描かれた絵画を訪ねたいと思います。

令和4年7月12日 四條畷楠正行の会 国府良三



= お礼 =

感想文の提出ありがとうございました。

様々な視点からの問題提起や感想を寄せていただきました。10回シリーズの公開講座は、私にとりましても、今までの集大成のような講義となり、四條畷正行の会での皆さんとの学びの

集約ともいえる結果となりました。

頂いたご意見を生かし、さらに学びを続けてまいります。

す。

扇谷 昭

(文責：四條綴楠正行の会代表 扇谷昭)